

**抜本的な浸水対策の取り組みは**

**問** 事業の進捗状況は。

**答** 国は芦田川の樹木伐採や土砂撤去、15カ所の危機管理型水位計設置、県は21河川の河道掘削、排水ポンプ車2台の新たな配備等

**幼児教育・保育の無償化は**

**問** ①本市の無償化の影響は。②保育士不足の対策は。

**答** ①2019年10月1日時点の保育施設の入所申込者数は前年

**新型コロナウイルス感染症対応は**

**問** 初動対応は。また、情報発信の考え方は。

**答** 感染者が発生した場合、保健所は、感染者の発症前2週間の行動歴等を調査し、濃厚接触者を

**福山100%教育は**

**問** 本市のめざす学力観は。

**答** 新学習指導要領では、子どもたちに育成する資質、能力を、生きて働く「知識、技能」、未知の

を行った。本市は河川等の土砂撤去のほか、瀬戸川流域の逆流防止弁の設置、手城川流域の雨水貯留施設の整備や雨水幹線とポンプ場の設計、他の流域の排水機等の設計に取り組んでおり、2020年度は手城川流域の谷地川たじがわの河川改修設計等にも取り組む。

同月比較で約200人増、2020年度の申し込み状況も2019年度当初を上回る状況で推移しており、影響があったものと考ええる。②保育補助者雇上強化事業などの保育人材確保に向けた3事業を2020年度以降も継続する。

特定する。その後、発病されていないか健康状態を確認し、必要に応じて医療機関への受診や検査を行うことで感染拡大防止に努める。また、感染者とその関係者の個人情報への保護に十分留意し、県とも連携して感染の拡大防止のために必要な情報を発信する。

状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の3つの要素で整理し、主体的、対話的で深い学びを通して育むこととしている。

**市民連合**



川崎 卓志

**鞆町の交通・交流拠点構想は**

**問** 県が打ち出した鞆町への交通・交流拠点の概要は。

**答** 県は、2月16日に事業説明会を開き、鞆町中心部への観光交通の抑制や地域の活性化を図るために、交通・交流拠点等を東側に

**スポーツによるまちづくりは**

**問** スポーツを通じた新たなまちづくりに対する考えは。

**答** 今年は東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、日本中がスポーツで盛り上がるが見込まれる。

本市でも、総合体育館エフピコアリーナふくやまを市民のスポーツ活動の拠点とするとともに、全国大会やプロスポーツなど大規模なスポーツイベントを積極的に開催して、見るスポーツ、するスポー

1カ所、西側に4カ所整備する計画を説明した。

東側は、駐車場や観光渡船の棧橋、にぎわいスペース等の機能を持たせるために、原漁港付近を約8000平方メートル埋め立てる計画。西側は、平地区の山側トンネル出入口付近に防災拠点、平漁港内の一部を約2600平方メートル埋め立て、ふれあい広場を整備するなどの計画としている。これらの施設の完成時期は未定だが、2023年度完成を目標に進める山側トンネルと平行して整備すると聞いている。

ツの両面から活気あふれるまちづくりに取り組む。

また、かわまち広場には、県内最大規模のスケートボードパークやSUP※サップなどの水上スポーツが楽しめる親水護岸を整備しており、エリア一帯でさまざまな住民同士の交流や健康づくりを展開していく。

さらに、人材や団体の育成、支援などに取り組み、スポーツによる豊かな地域づくりを進める。



※SUP (Stand Up Paddleboard) : ウォータースポーツの一つで、ボードの上に立ち、パドルをこいで水面を進んでいくもの。